【重要度２（指定外の配付禁止，教職員限り），教育支援課】

第181回 長崎大学ＦＤ実施報告書（平成31年4月1日提出）

１．題　目： 動機付けを高める英語教育について

２．日　時：平成 31 年 3 月 7 日（木）13：00～15：30
　　平成 31 年 3 月 25 日（月）13：00～15：30

３．場　所：教養教育棟 A-12

４．主　催：英語小委員会、言語教育研究センター

５．対　象：教養教育外国語科目（英語）担当教員

６．長崎大学ＦＤに関する申合せ第２第１項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　○　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　○　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
SCAS で行っている英語運用能力の向上を目的とした教授法の一端を公開し、長崎大学の学生に向けてカスタマイズした教授法のあり方について紹介する。
また、非常勤講師に対して、言語教育研究センターが作成した共通指導項目の内容に沿った授業展開及び学部教育への橋渡しという狙いを理解していただくとともに、今後非常勤講師の個人評価を進めるように大学から求められていることについて説明する。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）
13：00～13：15　「今後の初習外国語の基本方針について」
西原俊明言語教育研究センター長
13：15～15：30　SCAS 講師陣による教授法の説明（質疑応答含）
(途中 15 分休憩)　[1] May Kyaw Oo
“Technology in the Classroom”

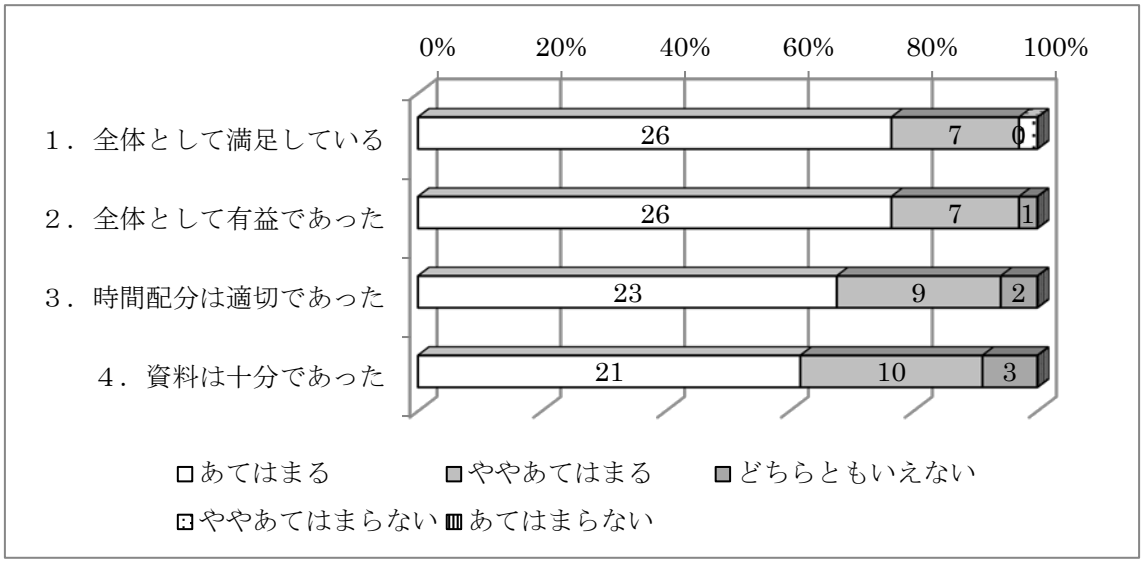
[2]Jesse Conway
“Collaborative Critical Thinking with Mini-Presentations in the Classroom”
[3]David Cupchack
“Activities that Build Speaking Fluency”

９．参加者：のべ 38 名（3 月 7 日　23 名、3 月 25 日　15 名）
（内訳）

所　属	人数
言語教育研究センター	8
多文化社会学部	2
教育学部	2
経済学部	3
工学部／工学研究科	1
学外非常勤講師	22
計	38

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等
（１）参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）
（回答者：34 名）



今回のＦＤの運営に関して、何か感想やご意見がありましたらご記入ください。
（アンケートからそのまま抜粋）

- Padlet のトラブルが意外に思い白かったです。本当の授業でもこんなことがあります。実践的指導は大変ですよね。
- Padlet を使ってみようと思います。
- 勉強になりました。ありがとうございました。
- 読み手が読める大きさの PowerPoint のフォントにしてほしい。
- 様々な動機付けを経験できて勉強になった。
- 今回の FD はとても役に立ちました。今日学んだことの多くを来年度使ってみたいです。
- ぜひ活用したいので、PowerPoint の配布資料がほしい。
- 今回の FD は、とても興味深く楽しいものでした。インターアクティブ・アクティビティはとても楽しく、授業で取り入れるアイディアを得ました。SCAS チームのプレゼンテーションは素晴らしく、次の FD が楽しみです。今回の FD では多くのことが学べました。
- 今日のような FD はとてもありがたいです。長崎大学の英語教育が何を目指しているのか共通の理解ができてよかったです。
- ワークショップ形式で面白かったです。ただ、モチベーションの高い学生には効果的でも、そうではない学生にはなかなかハードルの高い方法もあったように思います。自分のクラスで行うには、工夫が必要だと思いました。
- とても分かりやすいプレゼンテーションでした。
- とても役に立つアクティビティーとテクノロジーを知ることができました。ぜひ、今後の授業に取り入れたいと思います。また、SCAS チームの授業を実際に見てみたいです。

（２） 総　括

言語教育研究センター専任教員を除いた教養教育英語科目担当教員を対象にした 2 回の FD を行った。2 回目は本学の卒業式と日程が重なったものの、従来通りの参加者を確保することができた。

いずれの FD においても、SCAS 担当教員 3 名が講師となり、学生による授業時の発信を促す指導法を中心に、ラウンド・テーブル及びアプリの活用、さらにスピーキング力を増進させる指導法を具体的に示してもらった。

本 FD は 2 回とも参加者との相互的な質疑や意見の交換があり、ワークショップ形式の参加型 FD として、貴重な機会となったと考えている。

（文責：廣江　顕 ）

１１．実施代表者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：言語教育研究センター長　　氏　名：西原俊明
e-mail：t-nishi@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2095

１２．申請者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：教授　　氏　名：廣江　顕
e-mail：ahiroe@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2378